

01. 日光門前の概要 - 道路整備によって崩れゆく世界遺産「日光の社寺」の門前町

栃木県日光市にある日光門前は、日本橋か ら続く日光街道の終着点にあたる宿場町であ る。まちは、JR日光駅から日光東照宮まで の間に位置する7つの町 (上鉢石町・中鉢 石町・下鉢石町・御幸町・稲荷町・石屋町・ 松原町)で形成され、世界遺産「日光の社寺」 の門前町として多くの観光客でにぎわってい る。街道の道路整備事業が 2003 年に松原 図 JR 日光駅 町から始まり、一町内 (一区間) あたり約5 年をかけて整備が進んでおり、現在では、松 原町と石屋町が整備を終え、3 区間目の御幸 町で整備が進んでいる。今後、下鉢石町・中 鉢石町・上鉢石町へと整備が進む予定で、整 備完了区間からの経験も踏まえた準備や、整 備手法の検討が課題となっている。



図 日光門前各町の概要

02. 交通の変遷からみた日光門前の歴史 - 時代とともに移ろう町並み・

街道の道路整備は、江戸時代の東照宮造営によって門前町が形成されて以来、主要交通手段の変遷とともに何度も繰り返されてきた。かつての石段が 続く階段状の道から、人力車・牛車が普及することで傾斜のある道になり、市電が開通することで線路が敷かれた。そして、鉄道の開通や車社会への移 行とともに路線は廃止され、現代では歩道も含め当時の約3倍もの道路幅となった。今回の道路整備は、電柱の地中化と歩道拡幅により、車中心の社会 から、再び歩行者中心の街道空間へ戻すためのものとも捉えらることができる。「日光の社寺」の門前町として、国内外問わず多くの観光客で賑わう観 光地としては変わることがなかったものの、道路との関係性の変化により時代とともに多様な町家が形成され、現在の町並みを形成している。 表 交通の変遷からみた日光門前の歴

03. 時代が育む日光町家 - 空間と営みの重ね合わせによる時層の片鱗 -

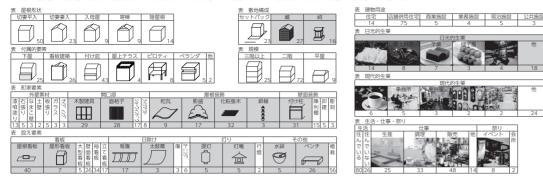
現在の日光門前には、見世蔵様式の羊羹屋、看板建築の団子屋、高層 RC の物産展 などといったように様々なタイプの町家が混在している。これらのように円光ならで はの営みが反映された町家の他にも、現代の営みが反映された新しいタイプの町家が 増えてきている。こうした町家の日光「らしさ」を継承しながらも、これからの営み に対応した次世代の町家・町並みを考えていく必要がある。



04. 日光門前の町家における「空間」と「営み」 - [らしさ] をあぶり出すフィールドワーク -

鉢石地区の街道沿い 123 敷地。町家 106 榛を対象に 「空間」と「営み」の要素を抽出するフィールドワークを行なった。「空間」の要素として、屋根形状・付属的要素・規模といった外形構成。外壁素材・開口部・屋根装飾・壁面装飾といった町家要素、 看板・日除け・灯りといった設え要素、及び敷地構成を抽出した。また、「営み」の要素として、建物用途、生業、 及び生活・仕事・祭りの要素を抽出した。

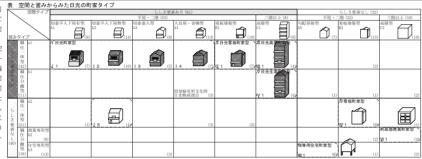
以上の「空間」と「営み」の要素を、日光門前に特徴的な要素を「らしさ要素」として整理することで、日光門前の特徴を「空間」と「営み」の両側面から分析した。



05. 「空間」と「営み」からみた日光門前の町家タイプ - 日光門前が育む町家のタイポロジー

「空間」と「営み」の要素から、「空間タイプ」と「営みタイプ」をそれぞれ導き出し、併せて 検討することで、日光門前における7つの「町 家タイプ」を導いた。

職住一体の営みがらしさ要素を持つ二層勾配 屋根の可謀で営まれる日光旬末型(1)、職住一 体の営みでらしさ要素を持つ看板建築の日光看 板町家型(II)、日光無層町家型(III)、看板町 家型(IV)、日光生薬町家型(IV)、高層商業町 家型(IV)、及び専用住宅旬家型(IVI)といった 日光町前におりる町家タイプが同うかになった。 それぞれの類型の特徴もみることができ、例え ば、現在増え続けている専用住宅タイプ(IVI) では、現在増え続けている専用住宅タイプ(IVI)で パックをしているものが多くみられた。



06.「空間」と「営み」からみた日光門前の町並み - 時層の蓄積がつくり出すシークエンス -

上記で導いた町家タイプをもとに、鉢石地区における町並みの特徴と、課題となる症状を明らかにした。高層の町家が集中する箇所や、連続性のある町並みが形成されている箇所、歯抜けのヴォイドを生じている箇所のほか、異なる町家タイプが並ぶ空地(計画地 1)、類似する町家に挟まれた空き施設(計画地 2)、町並みを乱す要素を持つ町家(計画地 3)、及び大きく町並みが崩れた連担空地(計画地 4)を導いた。



07. 日光門前における町家・町並みの症状 - 「空間」と「営み」の課題点-

上記で導き出した症状を整理すると、大きく以下のように大別できた。敷地単体の症状としては、【空地】、【空き家・空き店舗】、及び【可並みを乱す要素】がみられた。また、町家複数の組み合わせによる町並みの症状としては、【同種のタイプの前家タイプの並び】、【異なる町家タイプの並び】、【歯抜けのヴォイド】、及び【大きなヴォイド】がみられた。





08. まちづくろいのレシピ - 「らしく」 あるためのまちの処方箋

課題となる症状を解決するための小さなアイデアとして「らしく」あるためのまちの処方箋を提案した。新築町家や敷地連携などの【土地利用】、躯体保存や石蔵活用などの【既存利用】、前庭や帰型乗屋などの【敷地構成】、 切妻平入や下屋の付加などの【外形構成】、透道ファサードや適り土間などの【空間構成】、及び石橋みベンデヤン・場合との【寛之】といった空間の処力薬と、、競任・体や雰囲きなどの【生活】、ゲストハウスや工房など の【仕事】、及びイベントやマルシェなどの【祭り】といった海みのか万季を得象した。これらを敷地の作材に対して組み合わせて切りすることで、【一杯とした」と失わないまちざくりが可能となる。

